

健康科学研究科 健康栄養学専攻 修士課程

健康科学研究科 健康科学専攻 健康栄養学分野 博士課程

教育方法と教育の特色ある工夫

本学の各研究科・専攻は、それぞれの教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、専門領域ごとの特色を活かした教育方法による教育・研究を行っています。教育方法の特色ある工夫としては、入学生に社会人が多いことを活かしたフィールドワーク研究を推奨し、研究の成果を社会に還元できることが挙げられます。

【教育方法】

専門科目として、「臨床栄養学特論」「応用栄養学特論」「食品機能学特論」「食物認知生理学特論」「食感性工学特論」「健康増進学特論」「健康管理学特論」「食品作用学特論」の8つを開講しており、それぞれの専門家が極少数人数制で教育を行います。

各分野での国際的視野、高度な知識、近年の課題、問題解決能力、論文解読力などの修得及び独自に関連分野の論文を調べ、理解し、発表する能力を身につけるために、セミナー形式で教育を行います。

研究は、マンツーマンで指導教員の指導・教育を受けながら進め、研究成果を学会等で発表することが出来る力を培います。

更に、関連分野の実践の場で活躍している管理栄養士、医学、薬学、農学などの専門家の指導のもと実践力を養う教育を行います。

【教育の特色ある工夫】

- ・ 教員は、経験豊富な医師、管理栄養士、薬剤師、看護師、農学博士、生化学者など様々な職種から構成されており、幅広い専門分野から研究課題が選択できる。同時に幅広い教養が身につくような教育を行っています。
- ・ 広範かつ高度な専門的研究に取り込むことができる体制が整っています。学生は帝京大学や東京大学など他の専門の研究施設や、病院、（高齢者）福祉施設との共同研究に参画して研究ができます。
- ・ 東京ビッグサイト、幕張メッセで開催される FOOMA JAPAN（食品製造総合展）に、学生が主体的に成果を報告、ifia JAPAN（国際食品素材・添加物展）、JASIS（最先端科学・分析システム&ソリューション展）などへの参加を通して食に関する高度な専門知識の習得をサポートしています。
- ・ このような環境下で学生は日々コミュニケーション能力を身につけ、切磋琢磨して自分を高めることができるようになります。卒業後も社会で十分にリーダーシップを発揮できるようになることを念頭に置いた教育を行っています。

【健康科学研究科 健康科学専攻（博士課程）教育の特色ある工夫】

- ・ 健康科学専攻の中には修士課程の7専攻に対応した七つの分野（鍼灸学、柔道整復学、健康栄養学、言語聴覚学、作業療法学、理学療法学、病院前救急医療学）があり、修士課程から博士課程へと続く専門分野の連続性が保たれています。
- ・ 人を対象にした研究が主になるので、研究倫理全般と臨床研究の倫理を理解・修得するためにeラーニングを用いて基礎教育を行っています。
- ・ 研究自体は各院生が指導教員と相談・議論しながら進めますが、多様な医療職種の院生が共に学ぶ本専攻では、専門の枠を越えて他職種を理解し連携力を身につけることで、健康科学の広い視野に立って臨床や教育・研究の場で活躍できる人材を育成できると考えています。